

神奈川県内の障がい者雇用を進めるために

令和元年度の主な取組

令和元年6月19日

神奈川県障害者雇用推進連絡会

目 次

神奈川県障害者雇用推進連絡会の宣言	1
令和元年度の取組の方向性について	2
神奈川県内の障がい者雇用を進めるための令和元年度の主な取組	4
(1) 宣言1 (雇用の場の確保関連)	4
(2) 宣言2 (職業能力の開発関連)	8
(3) 宣言3 (職場定着の推進関連)	9
(4) 宣言4 (支援体制の整備関連)	11

神奈川県障害者雇用推進連絡会構成団体

日本労働組合総連合会神奈川県連合会
一般社団法人神奈川県経営者協会
一般社団法人神奈川県商工会議所連合会
神奈川県中小企業経営者協会
一般社団法人神奈川経済同友会
神奈川県中小企業団体中央会
神奈川県商工会連合会
神奈川県労働局
神奈川県
神奈川県教育委員会
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
神奈川支部 神奈川障害者職業センター

神奈川県障害者雇用推進連絡会の宣言
神奈川県の障害者雇用を進めるために

宣 言

本県では、民間企業における障害者雇用についてさまざまな工夫のもとに取り組まれてきましたが、法定雇用率を達成している民間企業の割合は、39.6%に留まっています。

こうした状況とこれまでの成果を踏まえ、労・使・国・県がそれぞれの立場で民間企業の障害者雇用を進める取組を行なうとともに、県内の全ての民間企業における法定雇用率の達成に向けて、全国的にも高いレベルを目指して一体となって行動するため、次のとおり宣言します。

- 1 障害者の皆さんの働ける場を広げ、働くことを希望する障害者の皆さんが就職できるようにします。
- 2 障害者の皆さんが働くために必要な知識、技術・技能の修得を支援します。
- 3 就職した障害者の皆さんが、長く働けるような職場作りに努めます。
- 4 働く障害者の皆さんを支える仕組みを充実します。

平成 18 年 6 月 28 日

神奈川県障害者雇用推進連絡会

背 景 (宣言時)

神奈川県内には約 36 万人の障がい者がおり、うち働くことを希望している障がい者は約 2 万 5 千人、実際に働いている障がい者は約 1 万 4 千人である。

このような障がい者の社会参加状況の中、なお一層の地域生活と就労を進めるため、改正障害者雇用促進法及び障害者自立支援法が施行され、障がい者雇用の取組が求められている。

従来県内の民間企業では、製造業等を中心に障がい者雇用に積極的に取り組み、県全体では法定雇用率を達成していた時期もあった。

しかし、長期にわたる厳しい経営環境の下で、これまで本県の障がい者雇用を牽引してきた製造業の障害者雇用率が低下したこと、従業者数が増加しているサービス業等第三次産業において障がい者雇用が進んでいないこと、一人以上の障がい者雇用義務のある企業数が拡大した中小企業において雇用する障がい者が増加していないことなどの要因により、ここ 10 年の障害者雇用率は漸減傾向にある。

また、教育関係では、県内の養護学校の卒業生が、民間企業での一般雇用の場よりも、授産施設、地域作業所などの福祉的就労の場にとどまる傾向にあり、その就職率は全国平均を下回っている状況である。

一方、障がい者雇用の受け皿となる県内の民間企業における努力の例として、法定雇用率達成に向けた特例子会社の設立の取組がある。本県には、全国で 2 番目に多い 28 社の特例子会社があり、多くの障がい者が雇用されている。このように民間企業は、様々な工夫のもとに、障がい者の雇用の場として大きな役割を果たし、障がい者雇用に努めてきたところである。

こうした民間企業の努力や国と県が連携して障がい者雇用対策を推進してきたにもかかわらず、平成 17 年 6 月 1 日時点の調査では、民間企業の本社所在地を基本とした県内の障害者雇用率は全国で最も低い 1.37%と、法定雇用率 (1.8%) は未達成の状況にあり、法定雇用率を達成している民間企業の割合は 39.6%となっている。

我々は、障がい者雇用において、全ての県民に対し次のとおり社会全体で取り組む姿勢と決意を表明し、行動することとした。

令和元年度の取組の方向性について

県内の民間企業（45.5人以上の規模の企業）における平成30年6月1日現在の障がい者雇用状況については、雇用率が2.01%と前年に比べ0.09ポイント上昇し、過去最高を更新したものの、法定雇用率2.2%及び全国の雇用率2.05%を下回りました。

企業規模別の状況をみると、45.5人以上100人未満規模企業の雇用率が1.48%と最も低く、次いで、100人以上300人未満規模企業の雇用率が1.74%、300人以上500人未満規模企業の雇用率が1.84%と県内の民間企業全体の雇用率2.01%を下回っており、特に中小企業における取組が進んでいません。

また、平成30年4月からは、障がい者の法定雇用率の算定基礎に精神障がい者が加わり、これに伴い、民間企業の法定雇用率が2.0%から2.2%に引き上げられたことから、障がい者雇用の一層の促進が必要です。

こうした状況の中、県は、平成29年4月から県障害者雇用促進センターにおいて、障がい者法定雇用率未達成の中小企業に対して、労働局・ハローワークと連携を図り、個別訪問の件数を増加して実施し、また、障がい理解促進のための出前講座を実施するなど支援を強化してまいりました。

令和元年度においても、連絡会としての目標達成に向けて、引き続き、構成団体がさまざまな取組を推進するとともに、構成団体の主催により、障がい者雇用に関する勉強会、講演会、研修会等を、使用者団体の会員企業及び労働団体の労働組合員等を対象に開催するなど、障がい者雇用の促進に向け構成団体が一体となって積極的に取り組んでいきます。

1 神奈川県障害者雇用推進連絡会としての目標

県内に本社が所在する企業等の障がい者雇用率について、法定雇用率2.2%の達成を目指す。

また、平成30年4月から障がい者の法定雇用率の算定基礎に精神障がい者が加わり、これに伴い、民間企業の法定雇用率が2.0%から2.2%に引き上げられたことから、特に精神障がい者の雇用の促進に積極的に取り組む。

<参考>

障がい者雇用率の推移

(単位：%)

	25年	26年	27年	28年	29年	30年
雇用率	1.68	1.75	1.82	1.87	1.92	2.01
前年比	0.05	0.07	0.07	0.05	0.05	0.09

(各年6月1日現在 神奈川労働局調べ)

県内ハローワークにおける障がい者の就職件数

(単位：件)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
就職件数	3,434	3,801	3,883	3,948	4,220	4,597
前年比	720	367	82	65	272	377

(神奈川労働局調べ)

2 神奈川県障害者雇用推進連絡会としての重点的な取組

障がい者雇用に関する勉強会、講演会、研修会等の開催

障がい者雇用に関する勉強会、講演会、研修会等を、使用者団体の会員企業及び労働団体の労働組合員等を対象に開催する。開催にあたっては、県障害者雇用促進センターが実施する出前講座を活用することもできる。

(1) 実施方法

団体の主催により実施する。なお、団体が勉強会等を実施する会員企業及び労働組合員等を選択し、実施することも可とする。

(2) 実施回数(目標)

幹事会構成員の労働団体及び使用者団体の各団体について、年1回以上開催することを目標とする。

神奈川県内の障がい者雇用を進めるための令和元年度の主な取組

神奈川県障害者雇用推進連絡会の宣言「神奈川県の障害者雇用を進めるために」に即して、労働団体、使用者団体及び行政が、令和元年度に取り組む主な内容は次のとおりである。

(1) 宣言 1 <雇用促進・就労支援>

障害者の皆さんの働ける場を広げ、働くことを希望する障害者の皆さんが就職できるようにします。

働くことを希望しながら、働く機会を得られていない障害者の皆さんは少なくありません。働きたいと考えている障害者の皆さんの働ける機会を増やす取組を進めます。

【新規】

ア 障がい者雇用のための企業向けガイドブックの作成

障がい者雇用に向けた準備の段階ごとに活用できる制度や、雇用後における適切な労務管理や職場定着に向けた取組のポイント、就労支援機関との役割分担のあり方などを分かりやすくコンパクトにまとめた企業向けガイドブックを作成する。

〈実施主体：県雇用労政課〉

イ 障がい者が働く現場見学会の実施

障がい者雇用経験のない企業等が自社での雇用イメージを持てるよう、実際に障がい者が働く現場の見学会を実施する。

〈実施主体：県雇用労政課、県障害者雇用促進センター〉

ウ 「かながわチャレンジオフィス」の設置

民間企業等への就職を目指す知的障がい又は精神障がいのある人に就労経験の機会を提供する取組として、「かながわチャレンジオフィス」を設置し、県の非常勤職員として雇用する。

〈実施主体：県人事課〉

【充実・強化】

ア 中小企業等における制度周知等障がい者雇用促進のための重点的な支援の実施

平成30年4月から民間企業の法定雇用率が2.0%から2.2%に引き上げとなった。法制度や初めて障がい者を雇用する中小企業に対する障害者初回雇用奨励金等の活用の周知等行政と使用者団体が連携し中小企業における障がい者雇用の促進を図る。

〈実施主体：神奈川県経営者協会、神奈川県商工会議所連合会、神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県商工会連合会、神奈川県労働局、県雇用労政課〉

イ 企業への訪問による支援の実施

障害者法定雇用率未達成の中小企業に関係機関が連携して訪問し、支援を強化する。
〈実施主体：神奈川県労働局、県障害者雇用促進センター〉

ウ 公共職業安定所におけるカウンセリング機能の強化

「精神障害者雇用トータルサポーター」による、精神症状に配慮したカウンセリングに加えて、精神障がい者等の雇用に関する啓発などの事業所への働きかけを行い、雇用と職場定着の促進を図る。また、個々の特性に配慮したきめ細かな就職支援を実施する。「発達障害者雇用トータルサポーター」による、発達障害者の支援の充実を図る。医療機関とのチーム支援を強化する。

〈実施主体：神奈川県労働局〉

エ 企業への法定雇用率達成指導の充実・強化

法定雇用率未達成企業に対する指導を充実・強化することとし、個別企業の指導においては、県障害者雇用促進センターとの同行訪問をはじめとし、関係機関と連携して行う。また、新たに雇用義務の対象となった45.5人～49.5人企業に対し、雇い入れに係る支援策の提案をし活用を促す等、支援及び指導を行う。

〈実施主体：神奈川県労働局〉

オ 企業や就労支援機関に対する研修等の実施

企業や就労支援機関を対象に、障がい者雇用や職場定着に向けたテーマを設定し、研修を行う。また、就労支援機関を対象に、精神障がい者向け職場定着支援ツールの活用に関する研修を行う。

〈実施主体：県雇用労政課、県障害者雇用促進センター〉

カ 精神障がい者雇用についてのセミナーの実施

精神障がい者雇用を始めようとする企業や既に精神障がい者を雇用しているが、職場定着に向け悩みがある企業等を対象に、精神障がい者雇用についてのセミナーを実施する。

〈実施主体：県雇用労政課〉

キ 企業ニーズに応じたよりきめ細やかな企業支援

企業のニーズに応じて、社会保険労務士による相談や就労支援機関による企業見学、実習に係るコーディネートなど、よりきめ細やかな支援を行う。

〈実施主体：県障害者雇用促進センター〉

【継続】

ア 会報、ホームページ等での広報

経営者団体の会報、ホームページを利用して障がい者雇用について広報を行う。

〈実施主体：神奈川県経営者協会、神奈川県経済同友会、神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県商工会連合会〉

イ 事業協同組合等算定特例の中小企業への周知等の実施

中小企業の障がい者雇用の促進策の一つとして、事業協同組合等を活用した共同事業において障がい者を雇用した場合に、組合等と当該事業に参加した企業の雇用率を通算できる特例がある。行政と使用者団体が連携し本制度の周知と活用を働きかける。

〈実施主体：神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県労働局、県障害者雇用促進センター〉

ウ 中小企業組合による提案型事業と行政との連携支援

会員組合の実施する行政への提案型事業の構築について、ハンズオン支援を行う。

〈実施主体：神奈川県中小企業団体中央会〉

エ 障がい者の就職者数の目標設定

チーム支援を更に強化することにより、公共職業安定所の紹介による障がい者の就職の増加を目指す。

(就職者数)

平成30年度実績	4,597件
令和元年度目標	平成30年度以上

〈実施主体：神奈川県労働局〉

オ 職場実習受入候補事業所の把握

障がい者が企業において職場実習を体験することを通じて、障がい者と企業の相互理解を進める。

〈実施主体：神奈川県労働局〉

カ 特別支援学校と公共職業安定所の連携による企業開拓

特別支援学校と公共職業安定所が連携し、生徒の実習、就職先となる企業開拓を行う。

〈実施主体：神奈川県労働局、県特別支援教育課〉

キ 保護者等の企業見学会

特別支援学校（知的障害教育部門）の保護者等が、障がい者雇用に先進的に取り組んでいる企業（特例子会社）を見学し、企業担当者の講話を聞く機会を設けることにより、就職に対する理解をより一層促進する。

〈実施主体：神奈川県労働局、県特別支援教育課〉

ク 障がい者雇用促進に向けたフォーラムの開催

県内民間企業の障がい者雇用者数が過去最高を更新する中、より一層の障がい者雇用の促進と、雇用後の職場定着を図っていくためには、障がい者の就労環境の質の向上が重要な課題となることから、令和元年度は、障がい者が働きやすい職場づくりに焦点を当て、多くの企業が参加できるフォーラムを実施する。

〈実施主体：神奈川県労働局、県雇用労政課、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部〉

ケ 福祉施設利用者の一般就労への移行等の促進

平成30年3月に改定した第5期神奈川県障がい福祉計画における、福祉施設の利用者の一般就労への移行に係る数値目標を達成するため、就労移行支援事業所等のサービス提供体制を計画的に確保するとともに、市町村域を超えた就労支援機関等による支援体制の構築を図る。

〈実施主体：県障害福祉課〉

コ 障がい者雇用のための企業交流会の実施

障がい者雇用が進んでいない中小企業等を対象に、障がい者雇用のための企業交流会を県内各地で6回実施し、中小企業等が障がい者雇用を進めるためのきっかけづくりを行う。

〈実施主体：県雇用労政課〉

サ 「かながわ障害者雇用優良企業」の認証

障がい者の実雇用率が4.0%以上で要件を満たしているなど障がい者雇用に積極的に取り組んでいる中小企業等を「かながわ障害者雇用優良企業」として認証し、その取組内容を広く紹介することにより、社会的に評価される仕組みをつくり、中小企業等の障がい者雇用の理解と促進を図る。

〈実施主体：県雇用労政課〉

シ 「かながわ障害者雇用ハート企業」の公表

障がい者の実雇用率が3.0%以上で要件を満たしているなど障がい者雇用に積極的に取り組んでいる中小企業等を「かながわ障害者雇用ハート企業」として公表し、扱っている商品・サービスをPRすることにより、社会的に評価される仕組みをつくり、中小企業等の障がい者雇用の理解と促進を図る。

〈実施主体：県雇用労政課〉

ス 精神障がい者を対象としたチャレンジ雇用の実施

就職を希望する精神障がい者を県の非常勤職員として一定期間雇用し、障がい者自身が経験と自信をつけた上で、企業等への就職につなげる。

〈実施主体：県雇用労政課〉

セ 社会自立支援員配置事業の実施

県立特別支援学校に民間企業等の退職者等を「社会自立支援員」として配置することで、特別支援学校を卒業する生徒等の就労を受け入れる民間企業等を開拓するとともに、特別支援学校と就労先企業等との連携を強化し、卒業生の就労の継続の促進を図る。

〈実施主体：県特別支援教育課〉

ソ 企業の経営者や従業員に対する研修（出前講座）の実施

障がい者に対する理解促進や、精神障がい者をはじめ、雇用した障がい者の職場定着の向上のため、企業の経営者や従業員に対する研修を出前講座等により実施する。

〈実施主体：県障害者雇用促進センター〉

タ 障がい者雇用に関する情報提供

障がい者雇用の流れ、各就労支援機関等の案内、企業における雇用事例など障がい者雇用に関する様々な情報を県ホームページ内のポータルサイト「ともに歩むナビ」でわかりやすく提供する。

〈実施主体：県障害者雇用促進センター〉

チ 事業主支援ワークショップの開催

事業主を対象にした小規模の参加型セミナーで、講義や経験交流、戦略作りを行うことにより、障がい者雇用、採用後の職場適応、復職への的確な対応等に係る基本的知識やノウハウの習得を目的としたワークショップを年2回開催する。

〈実施主体：(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部〉

ツ 職業リハビリテーション関係機関に対する助言・援助業務の実施

就労支援機関スタッフ等に対する就業支援基礎研修を2回計100名に対して実施する他、職リハ支援技法普及のための実習を年4回実施する。また、就労支援を実施する関係機関からの要請に基づき、各地域の職業リハビリテーションの状況やニーズに応じた助言・援助業務を実施し、就労支援ネットワークの充実・強化を図る。

〈実施主体：(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部〉

テ 「セレクト神奈川100」における障がい者雇用の促進

企業の社会的責任(CSR)の取組推進の一環として、「セレクト神奈川100」において、企業立地支援事業の認定を受けようとする際の常用雇用者の人数要件の判定の際に、障がい者の常用雇用者1人を常用雇用者2人とみなす。

〈実施主体：県企業誘致・国際ビジネス課〉

(2) 宣言2 <職業能力開発>

障害者の皆さんが働くために必要な知識、技術・技能の修得を支援します。

〔 障害者の皆さんが雇用され、就労しつづけていくためには、企業の求める職業能力を身に付けることが必要です。障害者の皆さんの仕事に必要な知識、技能を高める取組を進めます。 〕

【充実・強化】

ア 特別支援学校清掃技能検定事業

特別支援学校生徒の自立と社会参加に向けた職業教育の充実を図るため、基本的な清掃技能の習得と県立特別支援学校全体として清掃の指導方法及び評価を統一した清掃技能検定を実施する。また、この検定を踏まえ、社会教育施設で清掃の実習を行うなど、雇用の場の拡大を図り、障がい者雇用を促進する。

〈実施主体：県特別支援教育課〉

【継続】

ア 企業、特定非営利活動法人、民間教育訓練機関等への職業訓練の委託

企業、特定非営利活動法人、民間教育訓練機関等地域の多様な委託先を活用し、障がい者の能力、適性及び地域の障がい者雇用ニーズに対応した委託訓練を実施し、障がい者の就職率の向上を図る。

元年度は、37コース（定員295人）を実施予定。

〈実施主体：神奈川県労働局、県産業人材課〉

イ 神奈川県障害者技能競技大会等を活用した障がい特性等の紹介

神奈川県障害者技能競技大会（アビリンピック神奈川）等の機会を活用し、企業等を対象として、障がい特性等を紹介する。

〈実施主体：県雇用労政課〉

ウ 第17回神奈川県障害者技能競技大会（アビリンピック神奈川）の実施

令和元年10月24日（木）及び26日（土）に標記大会を開催する。平成30年度と同様、障がい者雇用を検討している企業関係者等が来場しやすいよう、平日に一部種目を開催する。

〈実施主体：（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部、県産業人材課〉

エ 神奈川障害者職業能力開発校における職業訓練等の実施

神奈川障害者職業能力開発校において障がい者が就職に必要な知識・技能を習得するための職業訓練等を実施する。

元年度は、11コース（延定員180人）を実施予定。

〈実施主体：県産業人材課〉

オ 就労移行支援事業等利用者の障がい者委託訓練受講の促進

就労移行支援事業等（訓練等給付に該当するもの）の利用者は、入所・通所授産施設等に登録したまま委託訓練を受講できることから、これらの委託訓練を利用する障がい者の受講を促進する。

〈実施主体：県産業人材課〉

カ 全国障害者技能競技大会（アビリンピック）参加選手育成・強化支援

令和元年11月15日から17日に愛知県で開催される第39回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）に参加する選手の育成・強化を支援する。

〈実施主体：県産業人材課〉

（3）宣言3 <職場定着支援>

就職した障害者の皆さんが、長く働けるような職場作りに努めます。

〔 職場での温かい支えがあると、障害者は仕事を続けやすくなります。
障害者の皆さんが働きつづけやすい職場作りの取組を進めます。 〕

【新規】

ア 障がい者雇用のための企業向けガイドブックの作成（再掲）

障がい者雇用に向けた準備の段階ごとに活用できる制度や、雇用後における適切な労務管理や職場定着に向けた取組のポイント、就労支援機関との役割分担のあり方などを分かりやすくコンパクトにまとめた企業向けガイドブックを作成する。

〈実施主体：県雇用労政課〉

【充実・強化】

ア 企業や就労支援機関に対する研修等の実施（再掲）

企業や就労支援機関を対象に、障がい者雇用や職場定着に向けたテーマを設定し、研修を行う。また、就労支援機関を対象に、精神障がい者向け職場定着支援ツールの活用に関する研修を行う。

〈実施主体：県雇用労政課、県障害者雇用促進センター〉

イ 精神障がい者雇用についてのセミナーの実施（再掲）

精神障がい者雇用を始めようとする企業や既に精神障がい者を雇用しているが、職場定着に向け悩みがある企業等を対象に、精神障がい者雇用についてのセミナーを実施する。

〈実施主体：県雇用労政課〉

【継続】

ア 課題解決に向けた取組の実施

連合神奈川において、障がい者雇用に関わる、政策・制度要求と提言を充実させるため、NPO 法人障害者雇用部会等と連携し、障がい者雇用を進める企業や関係団体などへの訪問や意見交換を実施するとともに、引き続き組織内でのアンケート実施等により、連合神奈川の構成組織に対する障がい者雇用の取組の理解促進・企業内労使協議への反映を図る。

〈実施主体：連合神奈川〉

イ ホームページへの掲載

労働組合員に対して、障がい者も働く仲間として迎える雰囲気作りを醸成する啓発内容や企業に対して障がい者雇用への取組を求める記事をホームページとフェイスブック等の電子媒体と併せ、連合神奈川機関紙「カレント」に掲載する。

〈実施主体：連合神奈川〉

ウ 障害保健福祉圏域ごとの就労支援の充実

障害者就業・生活支援センターが、県域内にある就労支援を行う機関等と密な連携を図り、就労及び職場定着支援の充実を図る。

〈実施主体：神奈川労働局、県障害福祉課、県雇用労政課〉

エ 障がい者雇用促進に向けたフォーラムの開催（再掲）

県内民間企業の障がい者雇用者数が過去最高を更新する中、より一層の障がい者雇用の促進と、雇用後の職場定着を図っていくためには、障がい者の就労環境の質の向上が重要な課題となることから、令和元年度は、障がい者が働きやすい職場づくりに焦点を当て、多くの企業が参加できるフォーラムを実施する。

〈実施主体：神奈川労働局、県雇用労政課、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部〉

オ 「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」の実施

精神障がい者及び発達障がい者の職場定着の課題を解消するために、共に働く一般労働者がその障がい特性等について正しく理解し、職場での応援者となるよう効果的な啓発の機会を提供するため、「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」を実施する。

〈実施主体：神奈川労働局〉

カ 精神障害者職場指導員設置補助の実施

精神障がい者を雇用して1年以内の中小企業で、雇用した障がい者の業務指導を行い、職場での相談に対応する職場指導員を設置している事業主に助成を行い、精神障がい者の職場定着を図る。

〈実施主体：県雇用労政課〉

キ 企業の経営者や従業員に対する研修（出前講座）の実施（再掲）

障がい者に対する理解促進や、精神障がい者をはじめ、雇用した障がい者の職場定着の向上のため、企業の経営者や従業員に対する研修を出前講座等により実施する。

〈実施主体：県障害者雇用促進センター〉

ク 障害者職業生活相談員資格認定講習等の実施

障害者職業生活相談員（障害者雇用促進法に基づき、5人以上の障がい者を雇用する事業所では、障がい者の職業生活全般についての相談、指導を行うために選任が義務付けられている。）の資格認定の講習を年3回開講する。なお、総受講者数342人以上を目標とする。

〈実施主体：(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部〉

（4）宣言4 <働く障がい者への支援>

働く障害者の皆さんを支える仕組みを充実します。

いろいろな支援の広がりがある障がい者の皆さんの就職を増やし、働く障がい者の皆さんを支えま
す。さまざまな立場から障がい者の皆さんを支援する取組を進めます。

【継続】

ア 障害保健福祉圏域ごとの就労支援の充実（再掲）

障害者就業・生活支援センターが、県域内にある就労支援を行う機関等と密な連携を図り、就労及び職場定着支援の充実を図る。

〈実施主体：神奈川労働局、県障害福祉課、県雇用労政課〉

イ 職業能力評価の実施

障がい者の適性を把握して求職と雇用のミスマッチを防止し、適切な就労及び就労の継続につなげるため、就労支援機関からのニーズに応じ、当該機関利用者の職業能力評価を実施する。

〈実施主体：県障害者雇用促進センター〉

ウ 障がい者雇用に関する情報提供（再掲）

障がい者雇用の流れ、各就労支援機関等の案内、企業における雇用事例など障がい者雇用に関する様々な情報を県ホームページ内のポータルサイト「ともに歩むナビ」でわかりやすく提供する。

〈実施主体：県障害者雇用促進センター〉

エ 神奈川障害者職業センターにおける専門的な支援の実施

精神障がい者、発達障がい者の利用者数増加に対して、職業準備支援とリワーク支援のカリキュラムを横断的に活用し、個々の障がい者の特性に合わせたカリキュラムを提供するとともに、両事業の終了者を必要に応じて職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援にスムーズにつなげる。

リワーク支援においては、月2回利用説明会を実施した個別のニーズに応じた柔軟な受け入れを行い利用促進を図る。

〈実施主体：（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部〉